

児童の数が増えると「いじめ」が心配

児童数と「いじめ」の発生の相関関係はありません。
これまで以上に、同学年の複数の先生による連携が強まり、もし発生しても早期に発見することも可能です。

先生の目が届かなくなると学力の低下が心配

学校全体の学級数が7以上になると、学級担任の他に教務主任が1名配当されます。これまでの1学年1学級の場合は、学級担任が研修等で不在になると、他の学年の先生や教頭先生が担当しなければなりません。

また、1学年1学級では一人の担任が全ての学習内容を組み立てなければなりません、1学年2学級であれば二人の担任で相談しながら、より充実した学習内容の検討ができます。

学校が遠くなると通学が心配

市では、通学距離によって通学支援を行っています。
通学支援をおこなう基準となる通学距離はありますが、通学距離のみをもって判断せず、通学する上でさまざまな危険が伴う場合には通学支援を考えていきます。
通学支援の方法については、地域の公共交通の状況を踏まえ検討します。

お問い合わせは下記へ

【問い合わせ先】

統合全般に関する事 教育委員会教育総務課 大森（内線2211）

通学支援に関する事 教育委員会学校教育課 中野（内線2225）

新発田市教育委員会 〒959-2323 新発田市乙次281番地2
（豊浦支所2階）

Tel (22) 9531 Fax (26) 3755

教育総務課 Email kyoiku@city.shibata.lg.jp

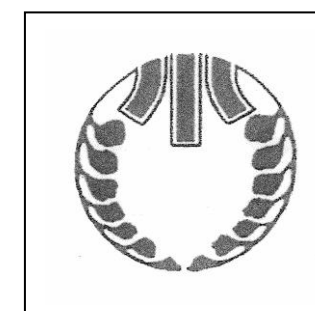
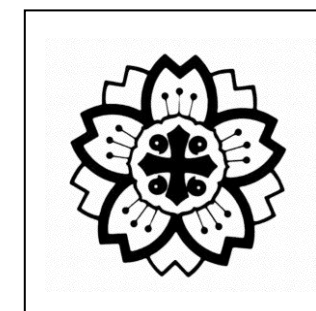
学校教育課 Email gakokyoiku@city.shibata.lg.jp

紫雲寺地域の

望ましい教育環境の

実現のために

（開校目標 平成33年4月）



新発田市教育委員会

なぜ学校統合なのかしら？

児童・生徒数の減少に伴って学級数も減少し、学校の小規模化が年々顕著となってきました。

このような学校の小規模化が子どもたちの教育にどのような影響を与えるのか、また望ましい教育環境とはどのような環境をいうのか、市では様々な角度からご意見をいただくため、市民各層の代表からなる教育制度等検討委員会を設置し、アドバイザーに敬和学園大学及び新潟大学の先生から専門的な立場からご助言をいただきながら子どもたちの望ましい教育環境について検討をお願いしました。

これを基に定めたものが「新発田市立小・中学校の望ましい教育環境に関する基本方針」です。

それでは 望ましい教育環境とは？

子どもたちが将来、社会人になるまでの人間的成長過程を十分考慮し、仲間づくりや学習活動、学校行事といった場面で人間力を磨きながら、活気にあふれた学校生活を送れる教育環境こそが望ましい教育環境ではないかと考えました。

学級数については、クラス替えができる1学年2学級以上、学級人数については、1学級20人以上が望ましい。（「新発田市立小・中学校の望ましい教育環境に関する基本方針」）

望ましい教育環境とは、単に学校規模の問題だけではなく、学校統合が行われた場合の地域環境の整備や通学対策など、諸課題への対応も必要となってきます。

これらを検討するために「紫雲寺地域統合小学校検討委員会」を立ち上げました。

紫雲寺地域で実現するためには？

平成29年5月1日現在の児童数と学級数は下記のとおりです。

	紫雲寺小学校		米子小学校		藤塚小学校	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	24	1	12	1	26	1
2年	20	1	10	1	11	1
3年	29	1	15	1	24	1
4年	24	1	17	1	24	1
5年	28	1	15	1	18	1
6年	35	1	20	1	20	1
計	160	6	89	6	123	6

児童数には特別支援学級在籍児童も含む

平成33年4月（統合目標年度）の児童数と学級数の見込み

	紫雲寺小学校		米子小学校		藤塚小学校	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
1年	26	1	11	1	17	1
2年	24	1	12	1	23	1
3年	30	1	13	1	11	1
4年	26	1	9	1	23	1
5年	24	1	12	1	26	1
6年	20	1	10	1	11	1
計	150	6	67	6	111	6

児童数には特別支援学級在籍児童も含む

これが3校統合すると

	児童数	学級数
1年	54	2
2年	59	2
3年	54	2
4年	58	2
5年	62	2
6年	41	2
計	328	12

1学年2学級
1学級20人以上
の実現